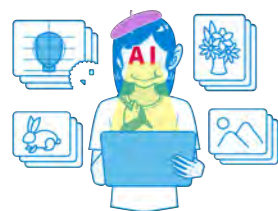


カツ #デジ活

暮らしに身近なものになってきた ICT・デジタル技術について、さまざまな情報を発信する連載企画「#デジ活」。今回は、スマホで試せる最新技術や、暮らしに定着しているサービスの進化を紹介しします。この夏のお買い物や、身近な人へのプレゼントに「デジ活」を取り入れてみませんか？



生成AI

人間の指示や問いかけに応じて、画像、文章、音声などさまざまなコンテンツを生成することのできる人工知能のことです。民間企業ではさまざまな分野への活用が進み、その技術を試せるサービスも増えてきています。将来的には、新しいアイデアを考えるヒントを得たり、難しい言葉をわかりやすく変換するなど、創造力を手助けするツールとしての役割が期待されています。

ナンバーレスカード

券面上にカード番号や有効期限、セキュリティコードなどが印字されていないクレジットカードのことです。使い方は通常のクレジットカードと同じですが、情報が印字されていないので、盗み見防止などのセキュリティ対策につながります。万が一紛失した場合も、カードの利用情報などはスマートフォンなどで確認できるものが多く、悪用されてもすぐに対処できます。ただし、カード情報の確認には端末操作が必要になるので、活用には慣れが必要かもしれません。



オンラインギフト

SNS や LINE、メールなどを使って贈りたい相手に送付するだけで、簡単に利用できる新しいかたちのギフトカードです。事前に住所や電話番号を確認しておく必要がなく、ギフトも数百円からと幅広いため、ちょっとしたお礼代わりに送ることも。また、送料や梱包の手間も省けるため、実際のお店で手続きするよりも簡単に利用できます。



皆さんの「困りごと」教えてください

「デジタルが苦手」、「これってデジタルで解決できないの?」、「日常でこんな悩みがある」など、皆さんが暮らしの中で感じている困りごとをお聞かせください。



▲ご意見はこちら



問 総務課 行政係 ☎0965-52-7111

東網道

令和元年6月設立



永田 敬介さん

法人専属のオペレーター（※2）が6人いることで機械操作技術が向上し、それに伴い作業の効率化や省力化がより図られています。

（※1）WCS（ホールクroppサイレージ）

稲の穂と茎葉を同時に刈り取ってロール状に成形したものをフィルムでラッピングして乳酸発酵させたもの。主に牛の飼料として利用されます。

（※2）オペレーター

農作業の一部を請け負う人のこと。機械を使い、田植えや稲刈りなどの作業を行います。

肥の川南

平成30年2月設立



平岡 英康さん

排水対策や田植えの方法など、新たな技術を積極的に取り入れています。新規作物の小麦や大麦若葉などはその作付けを年々増やしています。

令和きたかの

令和2年2月設立



那須 逸郎さん

水稻を法人直営で栽培しています。法人として取り扱う面積は、6つの法人の中で最大規模です。

残る課題へ一丸となって

水川町では、平成28年の2つの法人の設立を皮切りに、現在までに6つの法人が活動を行っています。取り組みが始まって7年。地域の農業を維持していくために、地区の課題と向き合いながらさまざまな活動が続けられてきました。農業機械の共同化はどの法人でも進み、大きなコスト削減が図られていますし、新規作物の導入により、その作付面積を年々増やしている法人もあります。しかし、高齢化や担い手不足による影響は大きく、それぞれの法人の取り組みだけでは、全ての課題に太刀打ちできていないのも現状です。

そこで平成31年に、各法人の連携や町全体の農業の発展を目指し、水川町農事組合法人連絡協議会が設立されました。法人の抱える課題は、町の農業全体が抱える課題でもあります。協議会を中心に地域の農業を守るための取り組みが今後ますます進められていきます。

今月の表紙



6月15日、農事組合法人令和きたかのの田植えが行われました。随時連絡を取り合いながらの連携した作業で、約9町(約1ヘクタール)の田んぼにWCSなどの苗が植え付けられました。